

Ⅱ.「地域の活性化」への貢献

● J Aファンづくりに向けた地域密着活動の着実な実践による 地域コミュニティの活性化

- 管内小学校で「J A夢塾」によるみそ造り体験教室や「たんぽぽの会」によるミニデイサービスの実施、「食農ティーチャー」による食と農の文化継承活動の充実等により、こどもから高齢者まで幅広い世代に向けて、健康で心豊かな暮らしや地域づくりを促進しています。
- 地域のイベントへの参加やグラウンドゴルフ大会の主催など、支店による様々な行動計画をもとに地域密着活動を行い、活性化および地域の方との交流を深めています。
- J Aの特性を活かし、食と農を基軸としたイベント活動等を各部署が一体となって展開し、アクティブメンバーシップ（組合員の積極的な参加と利用）の促進を図るとともに、J Aファンを拡大し、J Aとのきずなを深め、地域の活性化に努めています。



地域のイベントへの参加
(奈多植樹祭)



親子ふれあい食育フェスタ with アビスパ福岡



みそ造り体験教室



ミニデイサービス

● 地域実態・ニーズを踏まえたJA総合事業を 通じた生活インフラ機能等の発揮

- JAらしさを活かした金利優遇商品を開発し、定期貯金や各種ローン等の金融商品を充実させています。
- 組合員及び地域住民の健やかな生活を支えるべく、健康に特化した商品の提案に努めています。



直売所(愛菜市場)

- 各種イベントや直売所(愛菜市場)において、安心・安全で新鮮な地元農産物のPRや販売に努めています。
- 弁護士や税理士等の専門家による総合相談会や、社労士による年金相談会など、無料の各種相談会を開催し組合員の多種多様な相談に対応しています。



司法書士による総合相談会

信頼され、愛され、選ばれるJAをめざして

JA福岡市東部

自己改革の実践



重点基本目標

Ⅰ.「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦

Ⅱ.「地域活性化」への貢献

ホームページにもいろんな情報を掲載しています。パソコン・スマートフォンで検索してください！
J A福岡市東部ホームページ：<http://www.ja-fukutou.or.jp/>

(2018年〇月現在)



©みんなのよい食プロジェクト

耕そう、大地と地域の未来。JA福岡市東部



JAグループの自己改革とは・・・

JA(農業協同組合)は、農業協同組合法(1947年施行)に基づいて設立されています。その法律が改正され、「組合員のために最大の奉仕をすること」を目的とし、その事業を行うに当たっては、農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならないことなどが明記され、平成28年4月に施行されました。改正の内容としては、JAグループ全体の事業・組織の根幹にかかわる大幅な改正となっています。焦点となっていた信用事業の譲渡・代理店化や、准組合員の事業利用規制については見送られたものの、政府は改正法の施行から5年間の正組合員と准組合員の事業利用状況や、JAの改革(**自己改革**)の実施状況を調査し、組合員の評価を受けて検討したうえで結論を得るとしています。

これらの提起に対し、JAグループは自主的な判断で**自己改革**に取り組むことを決定しました。『食と農を基軸として地域に根ざした協同組合』として、多様な農業者のニーズに応え担い手をサポートし、農業者並びに地域住民と一体となって「持続可能な農業」と、「豊かで暮らしやすい地域社会」を実現していくため、『**農業者の所得増大**』『**農業生産の拡大**』『**地域の活性化**』を基本目標とした自己改革に取り組んでいます。



JA福岡市東部の自己改革実践状況

JA福岡市東部では、中期3ヵ年経営計画をもとに、自己改革の基本目標である『**農業者の所得増大**』『**農業生産の拡大**』『**地域の活性化**』の3つの実現に向け、都市近郊の地理を活かし地域に根ざした農業協同組合として、組合員および地域の皆さまから**信頼され、愛され、選ばれるJA**をめざして、自己改革に取り組んでいます。

I.「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦

●担い手経営体のニーズに応える個別対応

- **TAC**として生産者への訪問活動を行い、新たな品種や生産資材の提案を行っています。
- 野菜・果実の生産強化を図るために、新たな技術の普及指導に努めています。



TACによる訪問活動

●**TACとは...** 現在、5年後、10年後と地域農業を担っていく農業経営者、つまり「地域農業の担い手」に日々出向き、その「担い手」の声・要望を収集しつなぐことにより、事業に反映させ事業基盤の充実に貢献していきます。そういった活動を行うJA担当者が『**TAC**』です。

●マーケットインに基づく生産・販売事業の実践



- 市場出荷だけでなく、販売先のニーズに合わせた選別・包装加工を行い出荷するJA全農ふくれんのVF(ベジタブル・フルーツ)事業の利用を検討していきます。
- 市場の価格に左右されにくい学校給食への出荷を行い、安定した収入の確保に努めています。



●付加価値の増大と新たな需要開拓への挑戦

- 直売所(愛菜市場)に出荷された農産物の加工利用について検討しています。
- 管内の農産物を使用した加工品の開発・販売を行っています。



●生産資材価格の引き下げと低コスト生産を支援する体制の強化



- JA全農ふくれんを中心に近隣JAと一体となった取り組みにより、肥料・農薬の販売価格低減に努め、組合員の農業所得の向上を図っています。
- 生産コストを下げるために、近隣JAと協議を行い安価な農薬の試験を行っています。

●新たな担い手の育成や担い手のレベルアップ対策

- 志賀島に新設した新規就農者研修施設に研修生を受け入れ、農業技術の継承及び地域の活性化に努めています。
- 少量多品目の農産物を計画・生産する栽培指導を行うとともに新品種の提案等を実施しています。
- 先進地視察研修を実施して、栽培技術及び経営管理能力の向上に努めています。



新規就農者研修施設



●営農・経済事業への経営資源のシフト

- 営農指導充実のため、「日本農業技術検定2級」を受験し、中級営農指導員資格の取得に取り組んでいます。

